

琉球・亜熱帯建築の周辺

かぬち

kanuchi

No.16 2012
April

 Architect of OKINAWA
社団法人日本建築家協会沖縄支部

CONTENTS

1	支部長挨拶	2
2	リレーエッセイ「建もの旅日記」	3~9
3	おきなわの家	10
4	East-East展	11~12
5	「UIA 2011 東京大会」	13~16
6	浦添大公園南エントランス管理事務所設計競技	17~18
7	建築展「もっか進行中」	19
8	支部便り	20~22
9	JIA25年賞「読谷山窯」	23~24
10	卒業展結果発表	25~31
11	2012年度 J+A活動報告	32
12	新規加入者紹介	33
13	支部会員名簿	34~38
14	賛助会員名簿	39~40

支部長挨拶



JIA沖縄支部長 島田 潤
(SHIMADA JUN)

はじめに

3月11日に我々は未曾有の東日本大震災を経験しました。被災された方々の復興を願うとともに、JIA沖縄支部としても出来る限りの支援をしていきたいと思っております。この災害を深く受け止め、沖縄での安全で省エネルギーな、持続可能な建築、都市の在り方を考える契機としたいと考えます。また、これまで慶佐次前支部長が取り組んできた事業についても引き続き継続して、下記の基本活動を軸に、より活発に取り組んでいきたいと思っています。そして、建築や街づくりへの提言を積極的に行っていくつもりです。皆さまのご理解と御支援をよろしくお願いいたします。

設計業務環境改善に向けた活動

経済状況が厳しい中で業務環境を改善し、皆さまの御理解をいただきながら、より良い設計環境をはぐくんでいきたいと思っております。

また、過去の実績主義によるプロポーザル方式を改良して、中小アトリエ事務所も参加しやすい提案型設計案中心の「新方式プロポーザルコンペ」を引き続き他団体と協調して提言していきたいと思っております。

次世代の育成活動

支部主催の卒業設計選奨も回を重ね定着して来ました。建築を志す学生達の登竜門として励みとなるよう発展させていきたいと思っております。また、県関係部署の御尽力により若い設計者を対象とした設計コンペ（U-40）が実現しました。選ばれた最優秀案の完成に向けて、支部としてもしっかりと見守ってきたいと思っております。

それから、支部会活動においても若手建築家の活発な参加を促し、支部のより一層の活性化を図りたいと考えています。

建築、街づくり文化活動

昨年県立美術館博物館で開催した「建築展」を引き続き企画し、恒例の文化事業として定着させたいと思っております。また、沖縄建設新聞に連載中の「建もの旅日記」の執筆者を賛助会員の方々にも参加していただき、よりJIAを読者の方々にも身近なものとしてアピールしたいと思っております。

新しい事業として、沖縄振興計画への提言に向けた「沖縄環境特区構想委員会」を設けました。沖縄の歴史、文化、気候、風土に基づいた独自の見解を提言していきたいと思っております。

2010年9月、建設新聞の協力によりスタート致しましたリレーエッセイ「建もの旅日記」がいよいよ(2012年3月)ゴールを迎える事になりました。のんびり島めぐりの旅、かたや時間を越えて、空間を越えて遙かかなたの未知との遭遇、やっぱり「百聞は一見に如かず」です。

建築家は旅が好き！人間が好き！美味しいものが好き！カメラが好き！自然が好き！……旅は建築家をつくる！とも言われています。次は何処に行こうかな とソワソワしている方もいらっしゃるかと思います。命の洗濯も必要です、大いに旅をしてエネルギーを充電しておきなわの家、まちを元気にしましょう。

1	慶佐次 操	有 名工企画設計
2	島田 潤	株 デザインネットワーク
3	運天 勲	株 渡久山設計
4	金城 義治	株 プラットホーム 沖縄支店
5	松山 喜治	株 国建
6	金城 司	有 門一級建築士事務所
7	當間 卓	株 泉設計
8	本庄 正之	有 アトリエNOA
9	仲間 郁代	仲間郁代建築設計事務所
10	金城 傑	有 K・でざいん
11	金城 優	有 門
12	伊良波 朝義	有 義空間設計工房
13	西里 幸二	一級建築士事務所 西設計
14	福田 俊次	株 国建
15	藤元 節男	宜野座リゾート開発株
16	前田 慎	ポイントウォーカーデザイン
17	伊志嶺 敏子	伊志嶺敏子一級建築士事務所
18	宮平 隆雄	株 宮平設計
19	比嘉 伝英	美音 Space Design株
20	大嶺 亮	ファイブデイメーション
21	久高 多美子	株 東設計工房
22	大仲 英彦	(有)スタッフオズ
23	知念 信正	(有)新環境創造研究所
24	塩 真孝彰	パス建築研究室
25	上村 彰	株 チームアルファ
26	永山 盛孝	団設計工房
27	山城 東雄	株 東設計工房
28	上江田 正	有 GA2設計
29	赤嶺 和雄	有 GAN設計同人
30	長谷部 廣	有 長谷部建築研究所
31	美農 祐央	一級建築士事務所tin architects
32	武岡 光明	一級建築士事務所T・武岡建築設計室
33	根路 銘安史	アトリエ ネロ
34	門口 安則	(有)アトリエ門口
35	小林 文雄	株 ワールド設計
36	石川 幸延	石川幸延株

※NO1～NO15は昨年発行の「かぬちNO15-2011」に掲載しております。



第16回

（社）日本建築家協会 沖縄支部 幹事
前田 慎 ポイントウォーカーデザイン

離島の情調



製塩工場

酒のあては数多あり。先日、4選を果たした石原慎太郎都知事の語り

この世で一番旨い物は何かと酒の席で男どもが語らう中、一人が側室に問うた処、女は「塩でございませう」と返答。男どもは大笑いし馬鹿にする。側室は、その酒の席に出す料理全てを塩抜きにして出した。味も素っ気もない、まずい料理を着にする事となった男

で忘れられない下りがあります。30年程前に耳に入れたもので話しのディテールまでは覚えていませんが、「食事の時に酒を嗜まないなんて人として駄目な」と言った内容、氏の語りなのでもっと語彙豊かなれども単刀直入だったと思えます。

酒のあては数多あり。年重ね酒を嗜むようになり、とある方と飲む機会がありました。年配の方で、日本酒が好きなたつと長く談笑交々させてもらいました。その時「旨い塩は酒のあてになる」と話されていたのをふと思ひ出します。

とある歴史小説の下り。この世で一番旨い物は何かと酒の席で男どもが語らう中、一人が側室に問うた処、女は「塩でございませう」と返答。男どもは大笑いし馬鹿にする。側室は、その酒の席に出す料理全てを塩抜きにして出した。味も素っ気もない、まずい料理を着にする事となった男

旅の楽しみ、のんびりと

りもないから、何もなくて良。ただ、のんびりしたいから、そんな離島教えて」と。栗国を薦める事に。泊同行。製塩棟の間に花グロックが塩で朽ちている事が印象的でした。中に吊られた竹に降り注ぎ滴る海水、竹と海水が逆光で陰影を成し、一定のリズム滴る海水が清流の音のようで、困い越しに見えるそこは、とても優美で自然そのものでした。

徒歩で島を散策。小さな島だけど、のんびりと雄大な自然を感じる情調ある牧草地風景に、風を感じ入りました。写真を残しておこうとカメラでパシャリ。ん!? 雲行きがさうきまで汗ばむくらい晴れたのに、向こうの空が怪しいな……数分後……ワーワー!と豪雨。運良く!?なぜか傘を持っていたのでさすが、結果股から下はスッ濡れ。風が強く横殴りの風雨に撃沈。のんびり過ぎず為に来たのだから、これもよし、あれもよし、雨に濡れてもよし。

見所携わぬ観光地への旅行も良いけれど、そればかりが旅行ではないなど、土産あてに友人と一杯あおり、今度はどう行こうかと思索する。

※掲載写真は著者提供



牧草地



第17回

（社）日本建築家協会 沖縄支部 監査
伊志嶺 敏子 伊志嶺敏子一級建築士事務所

サバンナにて



小枝と牛糞でつくられた家屋

宮古島には、「カヤ草

骨組にし、牛糞と泥をこねてつくったアンパンのような形の極めて小さな家である。そういう小さな家々が、中心の広場を円形に囲み、その外周にはトゲのあるアカシアの枝

きの家は縄でくぐられ、瓦葺きの家はお金でくぐられる。」という古くからの言い伝えがある。ほとんどの島民が、ゆいまるでカヤ草の家をつくらせていた時代に、建築資材と職人を島外から調達し、お金を使った家造りをする裕福層に対して、皮肉ったようである。そのお金を縄にたとえる鋭さ、いかにも宮古人らしい。

六・七年前だったか、タンザニアのマサイ族の集落を訪ねたことがある。彼らは、タンザニア・ケニア両国の国境をものともせず、広大なサバンナで自由に牛を飼い、羊を飼育する遊牧民として暮らしていた。

そういう彼らの住まいは、小枝を骨組にし、牛糞と泥をこねてつくったアンパンのような形の極めて小さな家である。そういう小さな家々が、中心の広場を円形に囲み、その外周にはトゲのあるアカシアの枝

住まい・見える経済の仕組み

クリートブロックへと委

金収入を得るライフスタイルへと変化をもたらしている。確かに車窓から見える農家のつくりは、家の規模も大きくなり、屋根はお金で購入したのである。トタン葺きになっていった。農業地域を過ぎて、街に近づくと、壁も土壁からコン

（※掲載写真は著者提供）

の束が、まるで有刺鉄線のようになり、ドを築いている。猛獣などの外敵から村人や家畜を守るためである。接近してみなければ、そこが人の居住地だとは気づきにくく、サバンナの風景にうまくと

けこんでいたのだった。近年、政府の定住化政策は、農業や観光ガイドで現金収入を得るライフスタイルへと変化をもたらしている。確かに車窓から見える農家のつくりは、家の規模も大きくなり、屋根はお金で購入したのである。トタン葺きになっていった。農業地域を過ぎて、街に近づくと、壁も土壁からコン

わってゆく。いよいよお金でくぐられる風景へと変わってゆくのである。よく見ると中には、壁だけが建ち、壁の内側には草が茂るまで放置されているのが不思議と所々にある。

そうだ！銀行のローンがない、一気に上げる。現金収入を得るライフスタイルへと変化をもたらしている。確かに車窓から見える農家のつくりは、家の規模も大きくなり、屋根はお金で購入したのである。トタン葺きになっていった。農業地域を過ぎて、街に近づくと、壁も土壁からコン



農業を営むマサイ族の家

4

ニューヨークの風景 (株)日本建築家協会 沖縄支部 会員 塩真孝彰 パス建築研究室



トップライトのデザイン

ニューヨークは、一度は旅したい街。7年前にその機会を得た。コロンビア大学で開催された

DOCOMOMO(ドコモ)の国際会議に参加するために、1週間滞在した。その間、ブロードウェイ・ミュージカルを観たり、メトロポリタン美術館やグッゲンハイム美術館の見学、摩天楼を眺めながらセントラルパークで昼食、日常の忙しさから解放されてのんびりと過ごした。眠らない街、ニューヨーク。タイムス・スクエアのあるミッドタウンは多くの観光客でにぎわい、喧騒とネオンの煌びやかな世界が広がっていた。

ジョン・レノンの住んでいたダコタアパートは、セントラルパーク沿いであり、観光スポットとして、バスツアーに組み込まれている。

そんな旅で訪れたニューヨークで、一番の目的はグッゲンハイム美術館。ル・コルビュジエやミース・ファン・デル・ローエと並び称される巨匠のフランク・ロイド・ライトにより設計され、1959年に16年かけて完成した。プレリー・ハウ

アートに溶け込む建物



グッゲンハイム美術館外観

の水平を強調するライトの建築とは異質の、渦巻状の外観が目玉の建物である。エントランスホール上部の吹き抜けには、自然光を取り入れるためのトップライトがデザインされている。エレベーターで6階まで上がり、らせん状に下りながら展示室に入っていく構成となっている。ここには、ピカソやシャガール、セザンヌなど世界的な画家の傑作が並び、私の好きなデザインスキームのコンポジションも展示されている。建物自体が大きな彫刻作品のようで、アートの街ニューヨークに溶け込んでいた。

(※掲載写真は著者提供)

ミクロネシアのリゾート (株)日本建築家協会 沖縄支部 会員 大伸英彦 南スタッフオス



人工ビーチであることが分かる

那覇空港を飛び立って3時間半、グアムで乗り継いで更に1時間半程度だったか、降り着いたのはパラオ国際空港である。旅の目的は、現地調査。アメリカ力による国連信託統治から、独立への道筋がついた時期で、日本からの投資意欲が盛んな頃、私に課せられたのは「現地のイメージを掴んで」というものだった。

パラオは、ロックアイランドやブルーコーナリーと言ったマリンスポーツを持つ、200以上の島々からなり、マングローブに覆い尽くされた多くの沿岸部が、自然保護の指定をされている。島内はほぼしい建物も無く、当時はホテルも数少なかった。島民はぼウチナーンチュで、日本領土時代に多くのインフラ整備や教育施設の建設がなされた事で日本語が普通に通用する。さて、二泊三日の旅程の中、日中は島内調査をしたりポートから沿岸部の状況を見て回ったりと動き回った後、宿泊先のホテルへと向かう。

ホテルは、パラオパシフィックリゾート(PPR)、建物の屋根だけが見え隠れする緑の中を抜けると、突然エントランスビロテーターが現れる。木造の大屋根に覆われただけのビロテーターにボツとあるカウチとチェックスを済ませ、少し離れたコテージの部屋へ。

素朴で落ち着いた建物とヤシの木々が創り出す

自然とのバランスをデザインする



緑の木々と調和した建物

空気が、波の音と一緒に雑念を取り払ってくれる。ビーチの見渡せるプールサイドに、こじんまりとしたレストラン、浜辺にあるビーチサイドバーの雰囲気と、全てがヒューマンなスケールで緑との自然なバランスが感じられた。

初めて仕事を忘れ長く味わいたいという思いのまま帰途に就いたが、後日、PPRのビーチが人工であり、自然との調和が意図された物(デザインされた物)と知り、改めてデザインの力を深く感じさせられた旅となった。

(※掲載写真は著者提供)

ヨーロッパ建築めぐり (株)日本建築家協会 沖縄支部 会員 上村彰 椅子ームアルファ



森の火葬場

もう20年以上前になるがバックパックを背負ってヨーロッパの建築をめぐると、森の火葬場を訪れた。ケ月ちよつとの旅行だったが、たくさんの国を巡りかかるとの数の建築を見て回ったこともあり、正直言うところの細部などはあまり覚えてはいない。

ケ月ちよつとの旅行だったが、たくさんの国を巡りかかるとの数の建築を見て回ったこともあり、正直言うところの細部などはあまり覚えてはいない。

ケ月ちよつとの旅行だったが、たくさんの国を巡りかかるとの数の建築を見て回ったこともあり、正直言うところの細部などはあまり覚えてはいない。

周辺環境を生かした心地よい建築



ルイジアナ美術館のパンフレット

ルイジアナ美術館は、コペンハーゲン郊外にある、敷地の起伏に合わせて分棟配置された施設で、建物のいたるところから庭の緑や海が眺められ、自然とアートの絶妙なコラボレーションがそこかしこに見られる。

子供のためのワークショップルーム、カフェ、ミュージアムショップ、展示室や回廊の途中から自由に出入りすることができ、中庭があり、子供から大人まで一日中ゆっくりと過ごすことができるオープンで美しい美術館である。

森の火葬場はストックホルムの郊外に建てられている。鮮やかな緑の芝に覆われた緩やかな丘に、森の奥の墓地までまっすぐに伸びる石畳のアプローチ。左手にはアローに沿って白く低い壁が火葬場まで続いている。右手には深い森の緑を背にした十字架が青い空にそびえている。

写真で見ていた美しいランドスケープが目の前に広がり、興奮状態だったのを記憶しているが、写真ではわからなかった暖かく穏やかな空気を感ずることが出来た。

いずれも周辺環境を活かした居心地のよい場所であり、たくさんの人々に利用され愛されている施設である。機会があれば今度は家族を連れてゆっくりと滞在してみたいと考えている。

(※掲載写真は著者提供)

津波被災地へ (株)日本建築家協会 沖縄支部 会員 知念信正 南環境創造研究所



横転したコンクリート2階建ビル

5月の連休の最中、4日(水)〜8日(日)の4泊5日で東日本大震災の調査に出かけた。4月末には東北新幹線が再開し、東京から仙台に行くことが可能となっていた。沖縄だつて津波が来る恐れはないか。正に「アサム」で、住宅は基礎しか残っていないのだ。仙台市の多量被災地区の海岸地区も同様。仙台空港は被災がなかったものの、一部の内線は復旧しては数便は発着していた。

しかし周囲は瓦礫が散乱。その後石巻市を経て、いよいよ女川町へ入った。女川町は日経アーキテクチュアに載ったビルを見て、コンクリート2階建てが横転しているのを見て、これが数棟も倒れているのを見て、基礎にはコンクリート杭がぶら下がっているのだから、驚きだった。

気仙沼市周辺では、唯一「ホテル観洋」は営業しており、そこには泊まることが出来た。ここはやや高台にあつて、津波をまぬがれていた。ホテルはそれほど火山の人が宿泊しているわけではなく、被災地の片付けや支援関係者、ボランティアグループと思いきやかなりであった。

ホテルではお土産も置いてなく、当地でお金も落としたいと考えていましたが、それも叶わず本当に困りました。

着いた日の夕食は、近くのラーメン屋に行き、食事となったが、塩ラーメンの美味しかったこと。その夕食に聞いてみた。「この津波はどうだったの?」「お客さんが座っていたの?」「お客さんが座っていたの?」「お客さんが座っていたの?」

4日目夕方には仙台市に着き、伊藤豊雄氏設計のせんたいメディアセンターの被災状況調査へ。図書館は再開しており、一部ガラス破損部分は修理が済んでいた。最上階は天井が全部落ちており、再開の目途は立っていないとのこと。非構造部材の破損が建物機能に大きく影響するものだが、あくまで考えさせられた。

(※掲載写真は著者提供)



津波避難ビル

津波被災地へ

津波被災地へ

津波被災地へ

沖縄支部

沖縄の建築家が綴るリレーエッセイ集『おきなわの家 世界のまち』を発刊しました

沖縄支部は現在会員数が約60人ですが、全国の各支部に負けないよう沖縄支部の魅力をどんどん発信していきたいと思っています。その第一弾として今回、全国の会員さんにも一度は読んでいただきたい本を紹介します。

このたび沖縄支部会員によるリレーエッセイ集『おきなわの家世界のまち』(沖縄建設新聞発行)を発刊しました。このエッセイ集は、2年ほど前から沖縄建設新聞に会員メンバーでエッセイを執筆してきた企画を一冊の本にしたものです。「住まい備忘録」というタイトルの連載が始まりました。そのエッセイがなかなかの高評価をいただき、その連載が一巡し、次の連載「建もの旅日記」へとつながりました。

●「住まい備忘録」
住まいの設計を通じた建築家の回想録やエピソードなどが掲載され、いつもと違った建築家の一面が垣間見えて読者の心をつかんだようです。怖そうな顔つきで建築家が非常に涙もろい子供思のおじさんだったり、クライアントや現場で悪戦苦闘した話など、内容はさまざまです。一軒の住まいができていくまでの過程や思い、そして出会いなど建築家一人一人の住まいに対する熱い思いの詰まったエッセイです。

●「建もの旅日記」
「住まい備忘録」で建築家の思惟生態に興味を持った読者の反響から、テーマを変えてスタートした、新たな建築家の生態シリーズの連載です。旅日記は文字通り旅好きの建築家の旅先での思い出や感想が綴られています。ヨーロッパ、北米はもちろん、秘湯めぐりからアフリカのタンザニアまで幅広いスケールでエッセイが展開していきますが、なかには実は旅嫌いで臆病者の建築家が明かした、旅とJIA入会に関するエピソードなど、内容も盛りだくさんです。

その旅先での思い出も、建築家の視点に掛かると見方や感じ方が多様で、建築家の謎めいた生態に改めて読者から反響があったようです。

A5判、112頁
定価：900円(送料別途)
発行：沖縄建設新聞
[お問い合わせ・注文]
Tel：098-941-1064
Fax：098-941-1079
JIA沖縄支部事務局 世持さんまで



●建築家の物の見方、考え方を伝える

建築家は一般の読者にとって、とっかかりにくい生態のように思われていたようですが、このリレーエッセイによって多少なじみやすい地域人になったのではないのでしょうか。建築家とひとくりに捉えてしまうと、とても気難しい人達だと一般の方々は思われているようです。

「住まい備忘録」や「建もの旅日記」を通して建築家がいかになじみやすく、親しみやすく、ユーモアがあるのかを大いにアピールできたのではないかと思います。多くの方々に建築家の物の見方や考え方を伝えることは非常によい刺激となったようです。光や風そして影一つとってみても感じ方や考え方の違いがさまざまであり、新しい発見を伝えてくれます。ふだん何気なく生活しているありふれた街並みさえも、建築家の目にかければその洞察力で街の魅力が引き出されます。あるときは、世界中を旅する自由でありながらも一人旅する冒険者、あるいはグルメ好きな美食家、また筆一本で街並みや建物をスケッチする画家にさえも変身します。何にもまして、今回のエッセイ集が発刊されたことから考えると、エッセイストにもなってしまったようです。カメラマンと間違えるほどの腕の持ち主もいます。小さな本ではありますが、大きな価値のある一冊ができたのではないかと思います。まずはひとりでも多くの読者にこのエッセイ集が行きわたることができれば嬉しく思います。

もし現在この支部便りをお読みになっている皆さん、勇気を出して沖縄支部事務局まで注文してみたいかでしょうか。

(沖縄支部 金城 司)



建もの旅日記 第26回

愛と絵と (株)日本建築家協会 沖縄支部 会員
永山 盛孝 団設計工房



フリーダの家とリベラの家

「寝室は別々にして下さい」との要望を受けて、夫婦別室の住宅の設計をしたことはあるが、夫婦の住まいを別々に建てて1本の細いブリッジだけで繋いである真に不思議な住宅がメキシコにある。それはメキシコシティ郊外の高級住宅地に建つ、フリーダ・カローロとティエゴ・リベラの家である。メキシコの建築家フリーダ・カローロマンの設計で、ル・コルビジエの影響を強く受けた作品として、コルビジェのサヴオア邸の翌年に完成した初期モダニズムの先端を行く建築である。しかしメキシコではルイス・バラガンの方が有名であり、彼にも影響を与えたほどの建築家でありながら、余り知られていない。オゴルマンは建築家か

フリーダの青い家

ら間もなく絵描きに転向し、前衛美術活動に加わった後、随分生活を送り自ら愛絶つてしまう。この不思議な建物の創りは、細い柱で高々と持ち上げたピロティや横長の窓、コンクリートの螺旋階段とノギリ屋根など、どれもこれもコルビジェの作品と見間違えうほどの見聞である。青い建物でフリーダの住まいで、赤褐色と白で塗られた建物はリベラの住まいと対照的になっている。夫のティエゴ・リベラは当時メキシコで最も有名な画家で、大学や公共の建物の壁画を数多く手がけている。



フリーダの生家「青い家」

この不倫の現場を見つかり、フリーダの家の外階段で、リベラがその不実を詫言るシーンなどの撮影は実際の建物が見られていた。その後フリーダは家を出し、シュルリアリズムの絵の制作に没頭すると同時に、自らも多くの恋に走り始める。先ずは浮気の現場で、夫のリベラにピストルを持って追いかけられ、窓から逃げ出した恋人は若き日の彫刻家サム・ノグチである。またスターリンとの政争に敗れ、メキシコに亡命したトロツキーとの恋に落ちそして暗殺された場所の何れも、数奇な運命の女流画家、フリーダ・カローロの生家「青い家」である。

オゴルマンは建築家か

(※掲載写真は著者提供)

建もの旅日記 第27回

憧れのF・Mライトツアー (株)日本建築家協会 沖縄支部 相談役
山城 東雄 樹東設計工房



タリアセンウェスト 通常は見学できないライトの居住部分

それから建築家の著したライトの本を多く読むようになった。その後事務所開設10年が経ち、1988年初夏、好機到来、ロスからシカゴ、ピッツバーグ、ニューヨークとすべてライトの作品だけを見るツアーに導かれ参加申込者がなんと私を含め全国からためた4人車1台で引率の社長と合わせて5人で廻る幸運な旅でした。さすがに写真で見ると違い全て倒され感動の連続、タリアセンウェストにジョンスンワックスビル、ユニティ教会、ロビーパークの住宅群、カウフマン邸(落水荘)

有機的建築に魅かれて

最後にニューヨークのグッゲンハイン美術館と10日間の欲張ったツアーで、シカゴ、オークパークではいたるところライトの手がけた住宅だらけの感じで、その頃の若いライトは子沢山で稼がずにいられず、さぞ安くて早くつまい、が評判だったほどのジョークに笑いの絶えないツアーでもありました。ライト通の八田社長にライトをきかされ、なかでも当時施主であるルキウアイナとの駆け落ち事件など人間ライトの人物を偲びながら作品と比べ、建築にかけるすさまじいほどのエネルギーを感じる旅でもありました。



筆者(左端)と現地ガイド 落水荘屋上にて

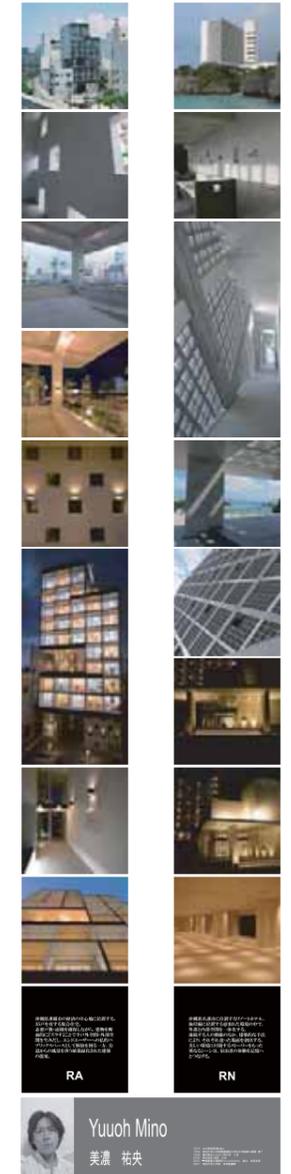
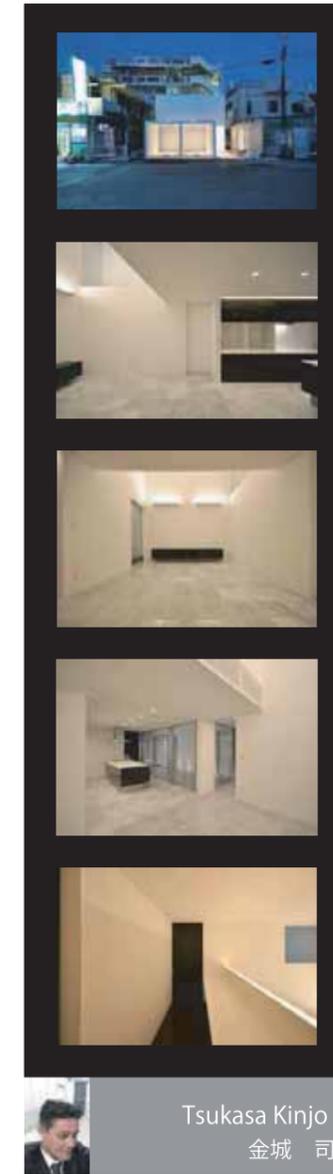
日本びいきのライトの作品には随所に日本的デザインが見られる。ユニティ教会の縦格子デザインや、落水荘の障子の組子を模した天井デザインなど60余年経過してもなお斬新さが感じられ、帰ってから社員にもこの良さを伝えようと思ひ、結びにライトは、老若にも学んでおり、彼の哲学は人間の精神と肉体は別物ではないとい、時間と空間はひとつ、自然は神の顕現、頼るべき偉大な思想は「万物帰一」であると言いつつ、どこに彼の有機的建築の元があり、一層魅力を感じ偉大な建築家として尊敬してやまない。

(※掲載写真は著者提供)

East-East 展

金城 司

第24回世界建築会議(UIA2011世界大会)東京大会開催のプレイベントとして、東京丸の内行幸地下ギャラリーにて第3回目となるリトアニアと日本の建築家作品展「East East展」が開催されました。沖縄支部からは前田慎氏、金城司氏、美濃祐央氏の3人が出展いたしました。このイベントはリトアニアのカウナス市長の発案により2001年に第1回が開催されたのが始まり、以来2009年のリトアニアの首都ヴェリニウスで第2回を開催、3回目にして初の日本での開催となるリトアニアと日本の建築家による、互いの建築文化への理解と交流を目的としたイベントです。



沖縄県浦添大公園南エントランス管理事務所設計競技

(U-40設計競技)

沖縄県により現在計画進行中である浦添大公園歴史学習ゾーン内、南エントランスの要所となる公園管理事務所建設整備に対し、将来を見据えた地域にふさわしい施設となる設計案を募集するとして、県内の若手建築士の育成及び建設技術の向上と発展の主旨の下、年齢制限(U-40)を設けた設計競技が昨年10月から11月にかけて開催されました。

設計競技報告概要

施設概要

床面積：270㎡程度、階数：平屋建て、建設概算費用：6000万円程度

応募条件

- ・平成23年9月20日に満40歳未満である事。
- ・一級建築士、または二級建築士の資格取得者である事。
- ・応募者又は所属する事務所が、沖縄県のコンサルタント入札参加登録されている県内事務所である事。

選考委員会

選考委員長：琉球大学工学部環境建設工学科 小倉暢之 教授

選考委員：社団法人沖縄県建築士会理事／中島親寛氏、社団法人日本建築家協会沖縄支部長／島田潤氏、社団法人沖縄県建築士事務所協会会長／仲元典允氏、社団法人沖縄県設備設計事務所協会会長／宮良洋三氏、浦添市景観まちづくり審議会委員／小林文男氏、沖縄県建築都市統括監／志村恵一郎氏 計7名

審査総評

このたび開催しました「(仮称)浦添大公園南エントランス管理事務所設計競技」は、応募者の年齢を40才未満の若手建築士に限定し実施したものであります。応募総数32件の応募が有りましたが、優れた作品が非常に多く、審査選考委員一同が2日間にわたり激論を交わし審議を行いました。また、公開ヒアリングを実施したことにより、一般の方にも審議の過程を見て頂くことが出来て大変良かったのではないかと感じております。

当該施設は、浦添大公園のメインエントランスに位置すると共に、浦添市の景観まちづくり仲間重点地区に隣接する敷地に立地するわけでございますが、予算や規模、景観形成基準等をクリアしなければならない等厳しい設計条件がある中で、若手らしい斬新なアイデアや様々な提案がなされたことは、今回の設計競技の目的と意義が十二分に発揮されたものであります。

また、応募作品全32作品中、1次審査に漏れた22作品の中にも大変意欲的で優れた作品があったことをこの場を借りて報告いたします。しかし、受賞しました5作品については、設計条件を十分に理解した上で合理的に具現化された、優れた提案がなされた作品であったことを高く評価いたします。

今回の設計競技が参加者の大きな自信となり、若手の建築士にとって大きな励みとなるよう祈念いたします。

小倉 暢之 (琉球大学工学部教授・審査委員長)



筆者コメントとして

設計競技を開催実施することは、主催者ならびに応募者に大きな費用と労力を課するものです。しかしながら、他の設計者選定の手法と比較した場合、作品性や地域の文化等、建築の有する純粋なコンセプトを抽出・創造する上で、効果的かつ有益な手法であると言えます。

今回、U-40の設計競技開催にあたり尽力を頂きました主催関係各位様にこの場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、沖縄建築文化の益々の発展、そして更なる質の高い建築物の創造を見据えて頂く為にも、民主的で且つ開かれた透明性の高い設計競技が、継続して開催されることを切に願います。

(JIA沖縄支部広報委員 美濃 祐央)

最優秀賞作品

No.18 おね線をずらした赤瓦屋根
金城春野 (ファイブディメンジョン一級建築士事務所)



浦添市の景観形成重点地区という厳しい制約条件の中で、これまでの赤瓦屋根建築に対してデザイン手法の新たな基軸を提案し、伝統と現代の融合を優れた造形にまとめた意欲的な作品として高く評価される。
(審査コメント)

おね線をずらした赤瓦屋根について ————— ファイブディメンジョン 金城 春野

建築における“沖縄らしさ”と赤瓦屋根は特に強い結びつきがある。今回の設計競技の敷地は、赤瓦を建築物に用いることを推奨している地域であった。しかし、“沖縄らしさ”を赤瓦で解決していいのか、という議論は、沖縄建築界で長年議論されつづけている永遠のテーマでもある。このような条件下で、赤瓦屋根を、コンペの要項にある他の設計条件と同様に、ひとつの条件として受け入れる方法を選択した。

もっとも、赤瓦を用いるからには、赤瓦を用いることに責任を持たなければならない。その為、赤瓦屋根を設計のコンセプトの主題に据えよう、と構想し、今回の案[おね線をずらした赤瓦屋根]に至った。

勾配屋根のおね線をずらすという形態操作は、瓦を載せなくても、それ自体で建築的には成立するかも知れない。しかし、この発想は、瓦を載せる為の勾配屋根と、自由な造形を可能とするコンクリートが合わさって、可能となる。言い換えれば、コンクリートに瓦を載せることが前提にあって、初めて生じる発想だった。

コンクリートスラブの上に赤瓦を載せるという行為そのものが恒例として定着しつつある沖縄の、特殊な状況があるからこそ、成せる案だと考える。既成の形態に操作を与えた、少し変わったこの建築物を通して、今一度、赤瓦屋根に関心を向けて見てもらえれば、この沖縄建築界の永遠のテーマにもひとつ貢献できるのではないかと、今は考えている。

優秀賞

No.21 白い森の休憩所
吉岡雄一郎 (アトリエ・ネロ)



この地区の景観形成基準には屋上緑化という概念は記載されていない。しかし、効果的に屋上緑化を施したこの作品は、十分修景しようという意欲が感じられる。また、大公園が目前に迫る中で公園利用者をどのよう導くかを考えると、このような作品があってもかまわないのではないかと。
(審査コメント)

佳作

No.11 ウラオソイの門
比嘉実美 (株式会社 二基設計)



正面ファサードに特徴があり、シンボル性が高い。また、左側の1号園路見ると開放的で優れた作品である。ただし、右側の住宅地からの景観に配慮が必要である。
(審査コメント)



優秀賞

No.24 古都へのいざない
翁長朝順、宮城江利奈 (株式会社 渡久山設計)



今回の提案書の中で、もっとも景観に配慮されていると評価される。赤瓦と屋上緑化を上手に配置し、右側の1号園路や公園側からの見え方にも十分配慮された作品である。
(審査コメント)

佳作

No.17 ウラオソイ“門”
仲本昌司、中園光浩 (有限会社 アトリエ・門口)



材料に赤瓦屋根や木を多用し、景観形成基準という制約を解決している作品である。新しい造形感覚を取り入れながらも、平面計画も明快でオープンであり、安全性にも優れているのではないかと評価できる。ただし、実際に赤瓦屋根を葺いた場合の屋根勾配の検討など課題が残る。
(審査コメント)

琉球浪漫 2011
沖縄建築展

もっか進行中



2011.12.20.TUE ▶ 12.25.SUN
沖縄県立博物館・美術館 県民ギャラリー

講演会 12月24日(土) 会場：美術館講堂
15:00-17:00 講師：横浜国立大学大学院教授 飯田善彦氏

後援(順不同)：(株)沖縄タイムス社・琉球新報社(株)・(株)沖縄建設新聞社・(株)タイムス住宅新聞社・NHK沖縄放送局
琉球放送(株)・沖縄テレビ放送(株)・琉球朝日放送(株)・石川文明堂(株)・沖縄ガス(株)・沖縄電力(株)・社団法人沖縄県建築士会
社団法人沖縄県建築士事務所協会

主催：  社団法人 **日本建築家協会沖縄支部**
問合せ先：〒900-0014 沖縄県那覇市松尾 1-12-8 (松尾ハウス 6F) TEL：098-941-1064



沖縄支部

琉球浪漫・沖縄建築展

12月20日～25日の日程で沖縄県立博物館・美術館県民ギャラリーにて、沖縄支部恒例の「琉球浪漫・沖縄建築展」を開催しました。会員作品のパネルと模型展示をメインに、UIA 2011 東京大会で発表した50年後の沖縄未来予想図、取り壊しが進みつつある戦後沖縄の名建築紹介、2011年春に実施された沖縄県新看護研修センタープロポーザルコンペの最優秀賞作品パネルと模型の展示、沖縄支部で沖縄県に働き掛け実施されたU-40コンペの入選作品パネル及び模型の展示を行いました。



戦後の沖縄の名建築を紹介

■一般の人たちに建築家の仕事を知っていただく
建築展では一般の方に、建物ができるまでを知ってもらいたい、建物を設計する我々建築家の仕事を知ってもらいたい、建物を設計するという行為を知ってもらいたいという思いを込め「もっか進行中」をテーマに建築展を企画し、①コンセプト→②初期イメージもしくは模型など→③工事中写真→④完成写真もしくは完成予想図、という設計から建物完成までを、時系列4コマ割り構成でパネルを制作し、展示しました。出展した会員建築家は総勢17名で、支部会員の20数%。住宅から大規模建築まで様々な用途・規模の模型も展示し、多岐にわたる建築家の仕事を垣間見ていただきました。



住宅から大規模建築まで展示された建築展

■頼もしい若手の活躍

若手建築家発掘育成の目的で開催されたU-40コンペの展示では、最優秀賞から佳作までの5作品の一次審査パネルと二次審査で使用された模型を出展してもらいました。最優秀賞は、昨年琉球大学大学院を修了した若手で、まさしく若手のためのコンペとして素晴らしい結果となり、現役学生も含めて県内建築業界の注目を集めたコンペでした。(p.022をご参照ください)

沖縄支部には正会員になる前の若手建築家グループ「J+A」(ジョア)というグループがありますが、彼ら製作の『ケンチク』というミニコミ誌の配布も行いました。このミニコミ誌は、内容豊かで、クラウドコンピューティングによる電子自治体の考察や那覇市波の上に存在していた「水上店舗」の取材記事が収められています。特に水上店舗については、誌面の過半を占めて読み応えあり！当時の関係者へのインタビュー、行政へのヒアリング、数多の参考文献をもとに執筆されています。実務の傍ら、これだけの物を書き溜めていた彼らのバイタリティーに脱帽、このミニコミ誌はすばらしい。

■飯田善彦氏を迎えた建築文化講演会

期間中には恒例の、建築文化講演会も催しました。講師には、沖縄県新看護研修センタープロポーザルコンペ最優秀賞受賞者の飯田善彦氏を招き、近作及びコンペの話をしていただきました。沖縄での実施コンペのコンセプトや現在の進捗状況などの他に、京都の計画(これまた実施コンペ当選案！)についてのお話が印象的で、街並みに溶けこんでいく施設のストーリーと京都の景観が調和し、情緒ある風情が想起できる講話でした。



飯田善彦氏の講演

沖縄支部主催琉球浪漫・沖縄建築展では、これからもいろいろな方法で建築を一般の方に紹介していきたいと思っています。

期間中408名もの来場者があり、来ていただいた方々に御礼申し上げます。また開催の準備にあたり、会員パネルの編集をしていただいた会員事務所の方々にお礼申し上げます。

前田 慎(沖縄支部建築展実行委員長)



沖縄の設計競技のあらし

U-40 設計競技の開催

■設計競技が根付いた事由

沖縄における設計競技の歴史は、1940年に端を発する。米軍統治下にあった琉球政府時代、大半の公共建築物は設計競技によって建設された。その理由として、コンクリート構造が一般汎用される沖縄では、本土のような工務店形式を有する設計と施工が同者に委ねられるケースは少なく、設計者の立場が独立したものと世間に認知されていたため、設計競技による選定方法が県内に根付いたきっかけとなっていると推察される。また当時の琉球政府（行政）の中に、公職を辞したのち自身で建築設計事務所を開業するに至るほどの建築家が在籍したことも、重要な要素として挙げることができる。第二次世界大戦によってすべてを失った沖縄（琉球）に新たな文化を創出することが大命題であった社会背景の中、建築に関わる人材の育成と建築文化の質の向上が問われた結果、「設計競技」という民主主義的な創造手法が選択されたと考えられる。21世紀に入り、当時建設された建築物の多くはその姿を消したが、残っている数少ない建築物は、今なお市民に有意義な活動の場を提供している。

■設計競技の最盛期

1975年の沖縄海洋博覧会を契機に、県内の大型プロジェクトを多くの県外設計事務所が手掛け、インフラの整備にかける資本の投入により、さらに公共事業の供給が推し進められるようになると、設計競技方式による設計者選定は更に一般的な位置付けとして定着した。

1978年には、国内においても有名な「名護市庁舎」の建設に伴う設計競技が全国を対象としたオープン競技によって開催され、795に及ぶ応募、308点もの多くの作品提出の中から象設計集団の提案が最優秀を勝ち取り、のちに日本建築学会作品賞を得るなど、沖縄の建築文化に深く寄与した。



名護市庁舎（筆者撮影）

しかしながら、名護市庁舎建設以降、公共施設に対して全国を対象としたオープンな公募型の設計競技は実施されておらず、要綱内に沖縄県内に在する事務所であることなどが求められ、競争原理は内側へと向かい、次第に「作品性」を問う公開型の設計競技は影を潜めていった。

■作品性の提案を重要視した採用

1990年代になると、全国的に入札やプロポーザル方式による設計者選定が主流となり、沖縄もその範疇から漏れることはなかったが、沖縄県発注の公共施設においては、同様の手法に作品性の要素を加味した新たな提案方法「公募型プロポーザル・エスキス方式」と称した試みが成されたことは大きな前進である。

2000年以降、社会構造の変革や経済事情の変化に伴い、大規

模な公共事業は減少することとなったが、そのような中でもまだ記憶に新しい「沖縄小児保健センター」「kokueikan」や、昨年行われた「沖縄県新看護研修センター」等、全国公開によるプロポーザル競技また設計競技が実施されたが、結果として沖縄県内の設計事務所が入選を果たせなかったことは至極残念であり、今後の飛躍が求められる。

■県内の若手建築家を対象とした設計競技の開催

昨年11月、JIA 沖縄支部の働き掛けに賛同頂き、沖縄県主催による「U-40（仮称）浦添大公園南エントランス管理事務所」設計競技が開催された。

当競技の主旨は、県内における若手建築家の育成を推し進めること、また建築技術の向上と発展を図ることを目的とし、40歳未満・沖縄県に入札参加を行っている事務所に勤務する資格保有者等とした一定の制限を満たすことを条件とし、一次選考はプレゼンシートにより審査選出、二次（最終）選考会は公開ヒアリングにより、二段階方式にて実施された。

最優秀には、今回の設計競技参加者中最年少であったファイブディメンション一級建築士事務所所属する金城春野氏が選出された。



最優秀作品（ファイブディメンション金城氏撮影）



表彰式（沖縄県HPより 右から4番目が金城春野氏）

設計競技を実施することは、主催者と応募者に大きな費用と労力を課するものである。しかしながら、地域の建築士の発掘・育成、建築技術の発展に際し、設計競技の有する役割は大きな位置付けとなる。また透過性の高い公募公開型の設計者選定により市民に対し開かれた行政の在り方を示す機会ともなりうる。地域に建築文化を生み出す一つの方法として今後も若手の登竜門としての設計競技が実施されることに期待する。



美濃祐央（沖縄支部広報副委員長）

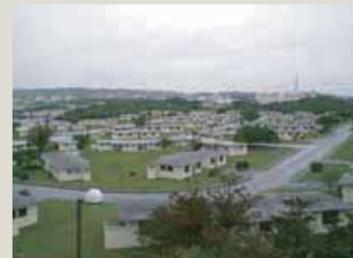
沖縄の建築事情

若輩者の私が「沖縄の建築事情」を語るのは恐縮ですが、日頃から業務として感じて経験していることを沖縄の建築事情のひとつとしてお伝えします。この業界に身を置き17年、事務所を設立して今年で10年目を迎え、主に新築住宅の設計を手掛けておりますが、最近の新築事情について書きたいと思います。

■建物の主流は鉄筋コンクリート構造

沖縄は亜熱帯地域に属し、これまで気候や歴史に沿って独自の建物形態が発展してきました。沖縄で見られる建物のほとんどが鉄筋コンクリート構造です。それは、高温多湿、強い日差し、毎年襲う強烈な台風、シロアリ被害など、厳しい条件下に耐えられる構造体であり、米軍統治下の歴史的背景のもと米国の文化、技術の影響を受けて作られてきたといわれています。

鉄筋コンクリート造の住宅のことを沖縄の人は「コンクリートヤー」（ヤーは家の意味）と呼び、かなり馴染みのあるものです。総務省の平成20年度の住宅土地統計調査からも沖縄の非木造の割合が95.1%（全国平均が41.1%）とかなり高く、沖縄にある木造住宅は5%弱しかありません。本土の沖縄民家に対するイメージは木造赤瓦かもしれませんが、実際には木造の建物はかなり少ないことがわかります。私の事務所でも受注の95%が鉄筋コンクリート構造で、あとは鉄筋コンクリート構造をベースにした混構造となっています。



米軍基地内の住宅風景



将来増築用に柱を突き出した角出しコンクリート住宅



コンクリート建築の街並み

■木造住宅の増加

それがここ2、3年県内の動きとして少し変化を感じるようになりました。それは施主と作り手（設計事務所、工務店、ハウスメーカー）を結ぶひとつのツールとなっている、県内2大新聞社が毎週発行している住宅関連系の情報誌面の中でも見られるのですが、掲載される広告やオープンハウスの呼びかけでも、以前は見られなかった木造の住宅が目立つようになりました。

実際の着工件数も調べてみますと、国土交通省の建設統計月報より平成20年、平成21年、平成22年の過去3年間、県内新築の着工件数は4,668件、4,781件、4,848件とじわじわと伸びてきているのに対し、鉄筋コンクリート構造の占める割合が68.2%から67.0%、61.8%と6%落ち、反対に木造が4.3%から5.3%、7.5%へと3%ほど上昇しています（鉄骨造と鉄骨鉄筋コンクリート造はそれぞれ17%と0.5%で横ばい）。

NPO 蒸暑地域住まい研究会（有志により結成。地域の住文化と最先端技術の融合エコハウスとして宮古島で伝統木造赤瓦住宅の面白い試みが行われています）や県の古民家再生や活用の呼びかけの動きなどの影響が功を成し、伝統への回帰、自然回帰へと向かう木造もありますが、本土メーカー、ハウスメーカー主導の木造、伝統とは異なる本土型の木造の台頭が目立つようになりました。



木造民家を踏襲したコンクリート住宅

■変わりつつある沖縄の住宅

木造と同じように増えているのが戦後コンクリート住宅とともに普及したCB造（補強コンクリートブロック造、ブロックヤー）ですが8.2%から10.8%、11.4%へと木造と同じ率の3%の増加です。3%は小さく感じますが、件数にすると150棟と結構な数値となります。

この傾向から推測できることがあるのですが、CB造も木造も共通してかつて沖縄ではマイナスのイメージ（台風に弱い、貧しい、暑い、寒いなど）の強いものでした。それが時代の流れと世代交代でプラスのイメージへと転化（木造はエコで環境や人にやさしい。CB造はオシャレなど）、そして求めやすい価格や技術向上、供給業者の進出と合致して増加傾向となっているのではないかと考えられます。一過性のものなのか、今後も持続してゆくのか、その判断は難しいのですが、新しい民家の形として戦後発展してきた鉄筋コンクリート住宅（コンクリートヤー）。新しい沖縄の住宅の形の模索はコンクリートによる表現の追求と同義だった時代によって、これまでの街並みが作られてきました。それもまた変わりつつあるのかもしれませんが。



仲間郁代（沖縄支部広報委員）

JIA 25年賞「読谷山窯」

JIA 25年賞

25年以上に亘って「長く地域の環境に貢献し、風雪に耐えて美しく維持され、社会に対して建築意義を語りかけてきた建築物」を表彰し、あわせて「その建築物を美しく育て上げることに寄与した人々（建築家、施工者、建築主また維持管理に携わった者）」を表彰することにより、多様化する価値基準の中で、建築が果たす役割をあらためて確認するとともに、次世代につながる建築物のあり方を提示することを目的とします。

○推薦文

赤土に建ち上がる野石積みと赤瓦屋根に廃材利用の電柱杉丸太で構成された建築は、群青の空のもとに沖縄の原風景を思い起こさせる佇まいの自力建設による建築郡である。

最近では、周辺に若手陶芸家が集まり新たな陶工村へと増殖しているが、開拓時の四人の陶芸家による苦難の陶芸村創りの精神が今でも響いてくる建築郡である。

そして、地域での物創りの原点や風土に融合する建築のあり方を私達に喚起させる陶芸村である。

竣工当時の理念で今でも使われており、県民のみならず、沖縄を訪れる方々にも広く愛され親しまれている建築郡であることから、「JIA 25年賞」の理念に合致するものとして推薦致します。

慶佐次 操・本庄 正之

○審査講評

琉球の原風景をここに感じる。

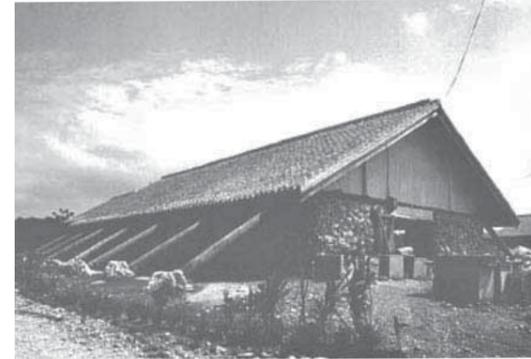
四人の陶芸家が、自分たちの仕事を模索して立ち上げた4つの仕事場と共同使用の登り窯。ここ読谷山窯の建築表現を決定しているのは廃材ともいえる。戦前に焼かれた瓦と長さ18メートルもの使用済みの電信柱を集め、そこに野積みの石をあわせている。

そこに参加した建築家が洲鎌朝夫さん。形態の決定、セルフビルドがさらなる風景との調和を感じさせる。セルフビルドだからこそ保守もまた自分たちの手で行うことを可能にしている。

竣工後25年。周辺のその後の建築表現にも統一感が計られている。

中原 洋

JIA本部 HPより抜粋



参考資料

建築物の名称	「読谷山窯」
建築物の所在地	所在地：〒905-8540 沖縄県中頭郡読谷村座喜味2653-1
建築主名	大嶺實清・山田真萬・玉元輝政・金城明光
設計者名(事務所名)	故人 洲鎌朝夫 (匠設計)
施工者名	施主直営 大嶺實清・山田真萬・玉元輝政・金城明光
竣工年月	1980年3月
建物用途	陶房・住居・売店



- 主 催／社団法人 日本建築家協会 (JIA) 沖縄支部
- 後 援／沖縄タイムス・琉球新報・沖縄建築新聞・タイムス住宅新聞社
NHK 沖縄放送局・琉球放送・沖縄テレビ放送・琉球朝日放送 (順不同)
- 協 賛／沖縄電力(株)・沖縄ガス・石川文明堂株式会社
株式会社建築資料研究社沖縄支店・株式会社建築資料研究社 日建学院沖縄校

審査委員会

委員長	委員	委員	委員	委員
				
伊礼 智 (有)伊礼智設計室 代表取締役	大仲 英彦 (有)スタッフオズ 代表取締役	平良 啓 (株)国 建 取締役	立津 秀樹 (有)プラネット 代表取締役	照屋 涼子 (有)モブ 取締役部長

優秀賞

	学校名	氏名	作品名
大学部門	琉球大学	森本 悠義	Mechanical Circulation
	琉球大学	三塚 研太	海の浮かぶ地上
専修学校部門	サイ・テク・カレッジ那覇	新城 紀咲	海の中の図書館
	サイ・テク・カレッジ那覇	松岡 秀幸	このキナンのキキになる駅
工業高校部門	美里工業高校	比嘉 亮太	琉球KuMoZiビルディング

特別賞

	学校名	氏名	作品名
大学部門	琉球大学	上地 陽史	お土産通りに建つ集合住宅
専修学校部門	サイ・テク・カレッジ那覇	武東 慶樹	遊・癒・食
工業高校部門	沖縄工業高校	高江洲 悠人	高齢者のいる二世帯住宅
	美里工業高校	我那覇 宗谷	病院建設

総評

審査委員長 伊礼 智

審査委員長という大役を授かり、審査の基準をどうしようかとずっと考えていました。学生は必ずしも沖縄をテーマに選ばないのではないか？と東京の感覚で考えていたので、できることなら沖縄をテーマにしっかり取り組んだものがないなあと思っていたのです。

大学部門

ほとんどの案がきちんと沖縄の社会を見据え、テーマを掘り起こし、そこから手がかりを掴み、コンセプトを組み立てて、形を与えています。沖縄をテーマにしていなくてもありますが、きちんと社会を見据えて、あるいは日常の何気ない風景から、テーマを育て上げて、展開していくプロセスがうまくできていました。大きく分けて、「論理的な組み立て」と「詩的な組み立て」に分けられるかな？「詩的な組み立て」派は詩的な空間、プレゼンテーションで癒されるような好感の持てる作品ばかりでした。「論理的な組み立て」派はリアルな難しい問題をどう解くか、無理矢理ねじ伏せ（現実的でなくても自分なりの答えを用意する）、かまわず進めるか？（笑）で明暗を分けたように思います。

専門・専修学校部門

卒業設計というよりも、その一步手前の講評の段階のように感じました。特にリアルな沖縄の社会問題を解こうという建築を提案するという事は、年齢から考えると幼く見えるのは無理ありません。もっと、個人的な興味で建築を考えても良かったかも知れません。個人的な興味からコンセプトを組み立てた案のいくつかは、未熟ながらも強く好感を持ってました。

工業高校部門

まじめに課題に取り組んだことが伝わる案でした。来たるべき沖縄の問題（高齢化社会）に取り組んだ住宅の課題をはじめ、病院建築という機能をきっちり学ぶ課題、自由に、大きな建築を提案してみた課題、複合ビルやスタジアムなども楽しく読み込んだ。CGだけでなく、模型で表現するとリアルに近い感覚が身につくはず……それがちょっと寂しかった。

作品応募数 ・ 大学部門 5点
 ・ 専修学校部門 12点
 ・ 工業高校部門 5点
 合計 22点

審査風景

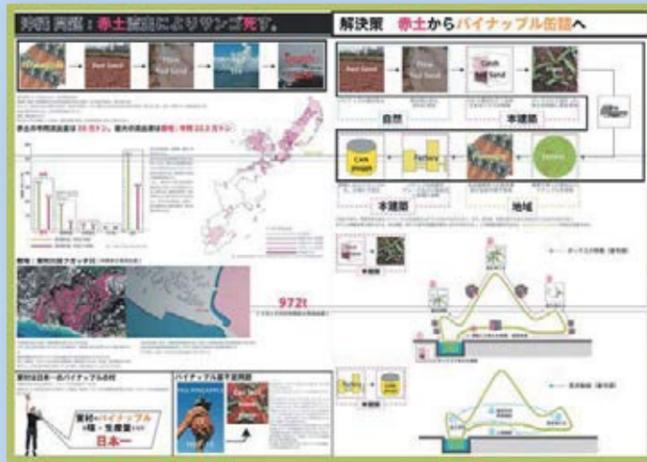


選 奨 作 品 (優秀賞)

大学部門

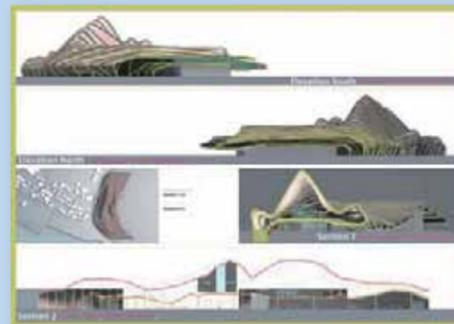
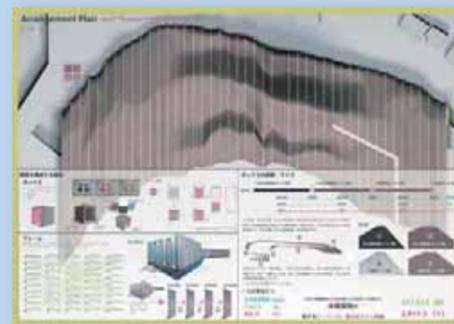
作品 - Mechanical Circulation

森本 悠義 - 琉球大学



赤土の流出に着目し、それをパイナップルの苗木を育てるプラントに仕立て上げ、それを不思議な鍾乳洞のような、魅力ある空間にまで構築したエネルギーと造形力が素晴らしい。卒制とは思えないような、きめ細かいリサーチが卒制にありがちな「荒唐無稽」さ、を払拭しています。地域を考えながらも地域性を超えた作品。森本さんの風貌がパイナップルと違和感がないことも確認できて強く好感が持てました (爆笑)。

(講評: 伊礼 智)

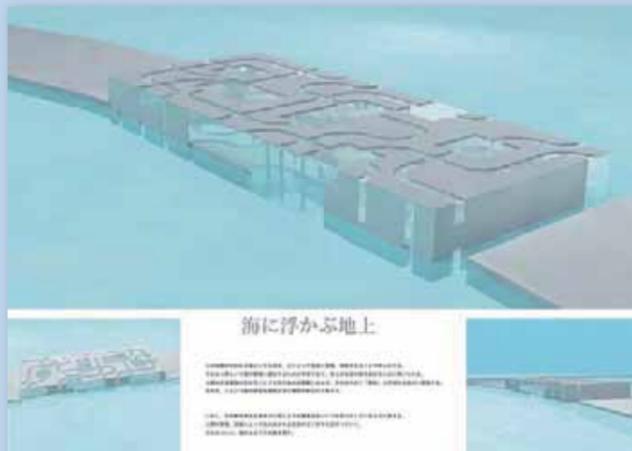


選 奨 作 品 (優秀賞)

大学部門

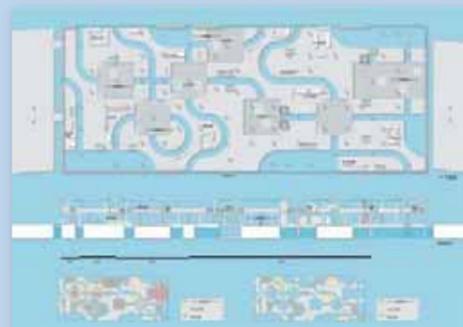
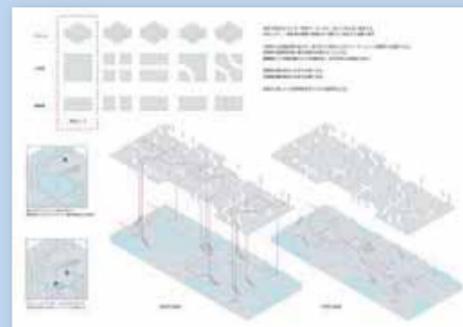
作品 - 海に浮かぶ地上

三塚 研太 - 琉球大学



一見、「海に浮遊する建築」と言う印象から始まるのであるが、5種類のピースで3層に構成された建築に、潮汐を利用し海水を取り込み、空間の構成に変化を与える…という興味引かれる内容に上手くまとめられた作品である。コンセプトによると、埋め立て問題をテーマにした人間の欲望を表現する事案となっているが、この「海と建築との関わり方」に対する一つのアイデアは、沖縄の沿岸部にもいずれ具現化されるかもしれない…夢を抱かせる前向きなものとして、高評価を得た。

(講評: 大仲 英彦)

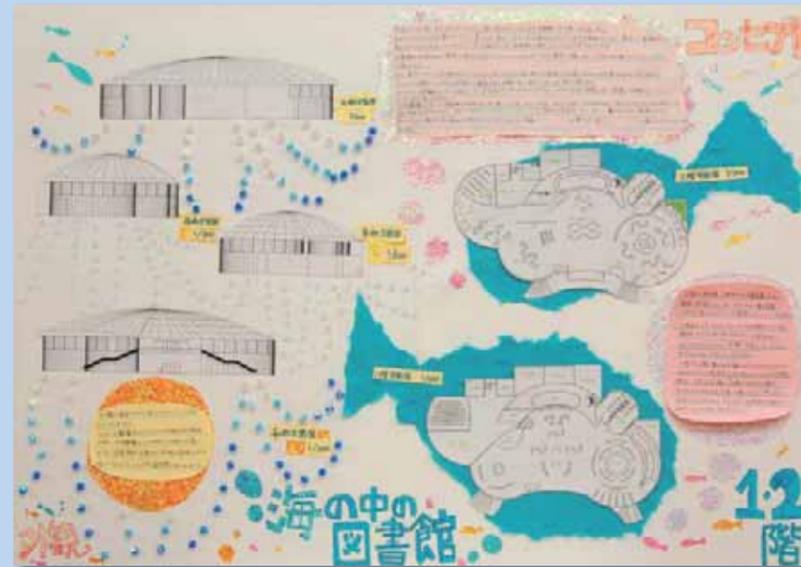


選 奨 作 品 (優秀賞)

専修学校部門

作品 - 海の中の図書館

新城 紀咲 - サイ・テク・カレッジ那覇



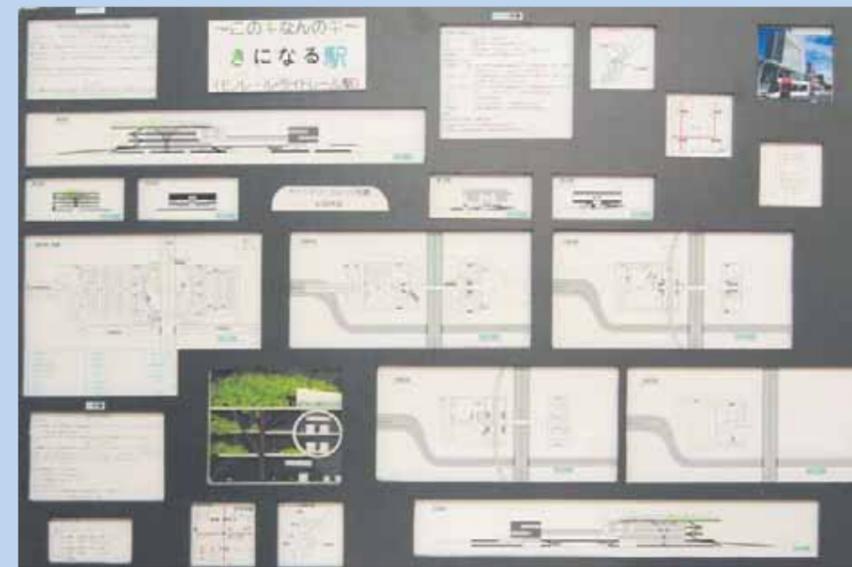
活字離れが叫ばれ、インターネットなどで簡単に情報が手に入る現代にあって、魅力ある図書館とは何かを考えた作品である。「海の中にいるような、ゆったりとした空間に癒されながら読書をしたい。いろんな年代の人に使ってもらいたい。大人と子供のスペースを分ける事で、子供が1階は大人の行く場所。自分も大きくなったら1階に下りてみたいと好奇心を持たせて大きくなって図書館を利用してもらえるようにしたい」というような素直で温かなコンセプトにとっても好感が持てた。まだプランの段階で、もっと詰めたものを見てみたいが、建物というのはデザインや機能だけではなく、人をわくわくさせたりできるものなんだと、あらためて気づかせくれた作品である。(講評: 照屋 涼子)

選 奨 作 品 (優秀賞)

専修学校部門

作品 - このキなんのキきになる駅

松岡 秀幸 - サイ・テク・カレッジ那覇



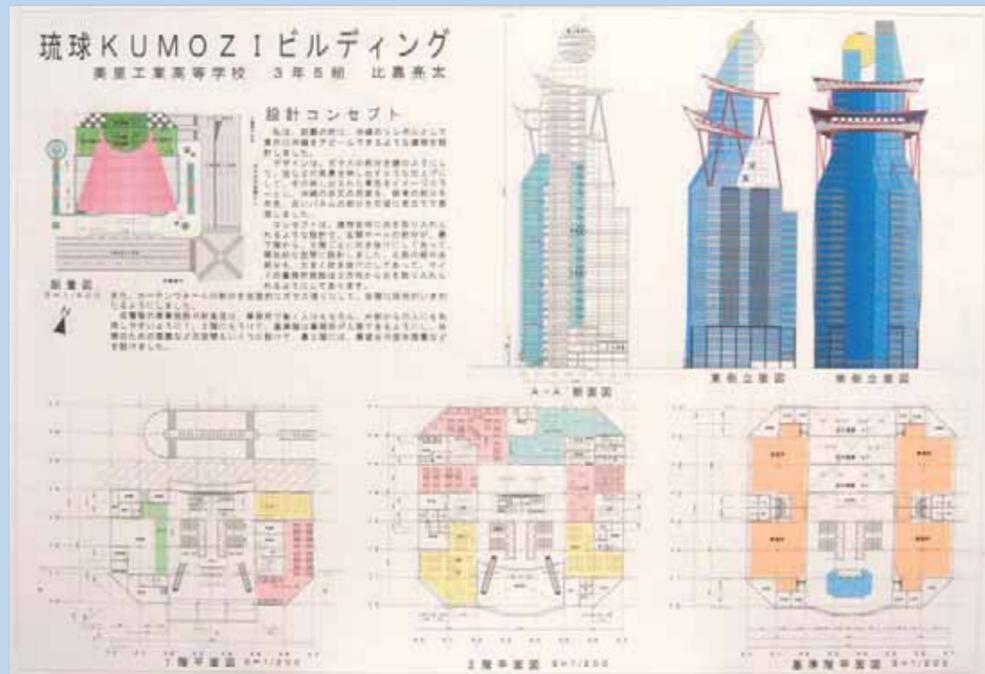
1枚のパネルでは、表現し難い、沖縄の交通体系の提案という壮大なテーマの作品である駅ビルという沖縄にはまだ存在しないテーマに正面から取り組んだ提案は評価したい。樹をモチーフにした駅は空間的にゆるい感じでも良かったかな感じる。その樹(駅)を中心として、広がるコミュニティー、街が楽しいという表現があるともっと空間が広がったのではと思うが、建築を地域と連動して考えるという提案を評価したい。(講評: 立津 秀樹)

選 奨 作 品 (優秀賞)

工業高校部門

作品-琉球KuMoZiビルディング

新城 紀咲-美里工業高校



沖縄のシンボルとなるよう設計されたビルディングである。かつては東京タワー、今日では東京スカイツリーや、大阪の通天閣など、シンボリックな建築物というのは、観光立県を目指す沖縄にとって必要で、建築に携わる私たちが一考する価値のあるテーマだと思うが、その大きなテーマに大胆に取り組んだ事を評価したい。

沖縄の海や赤瓦をイメージした外観も、若者らしく素直な引用である。大きなボリュームだが、各スペースのスケールも上手にまとめて、1つのビルとしている。

ただ外観は沖縄らしさが前面に出ているが、平面プランや外部と繋がる空間にも、その沖縄らしさを意識させる工夫があると良かった。

若者らしいのびのびとした発想と大胆さを今後も伸ばしてほしい。

(講評：照屋 涼子)

審査風景



選 奨 作 品 (特別賞)

大学部門

作品-お土産通りに建つ集合住宅

上地 陽史-琉球大学



国際通りという沖縄の代表的な通りへの提案である。お土産屋通りと化した国際通りに生活感を取り戻したいというシンプルな提案である。リニアで無機質な通りへ、住戸を積み上げ、縦て横へずらしそこにできた隙間空間にスーヅ(路地)を引き込み賑わいを創出するという古典的な手法であるが、この空間は街並みへの土着性を感じる、提案は住戸ゾーンであるが、ショップハウスやアトリエなど混在感にバリエーションをもたせるとより賑わいが広がり街再生の期待感がある。

(講評：立津 秀樹)

選 奨 作 品 (特別賞)

専修学校部門

作品-遊・癒・食

武東 慶樹-サイ・テク・カレッジ 那覇



多種にわたる機能を持った複合施設で、「光エリア」、「癒しエリア」、「自然エリア」に5つの遊ぶ空間と3つの癒しの空間を配置して、雑な空間になりがちな複合施設に明快な性格付けを行っている。球体を基本に各機能を連結し、造形的にもユニークでワクワク感を演出しており、つい訪れて見たい建物である。模型やプランの表現をさらに深めることで、よりインパクトのある作品が創出されることが期待され、伸び代のある作者とみた。

(講評：平良 啓)

選 奨 作 品 (特別賞)

工業高校部門

作品-高齢者のいる二世帯住宅

高江洲 悠人-美里工業高校



沖縄でも確実に核家族化が進み、世代間のつながりが希薄になりつつある。そのような流れの中で、若い世代が二世帯住宅について提案することに意義がある。高齢者と家族団らんの部屋を1階に設け、浴室とトイレを広くとるなどの工夫が見られる。精緻で多彩な表現力には、図面表現技術の進化が著しいことを実感する。もっとオープンなプランとし、1階と2階が立体的につながって互いの息遣いが感じられる計画を展開することで、魅力的な住まいに近づくと思われる。

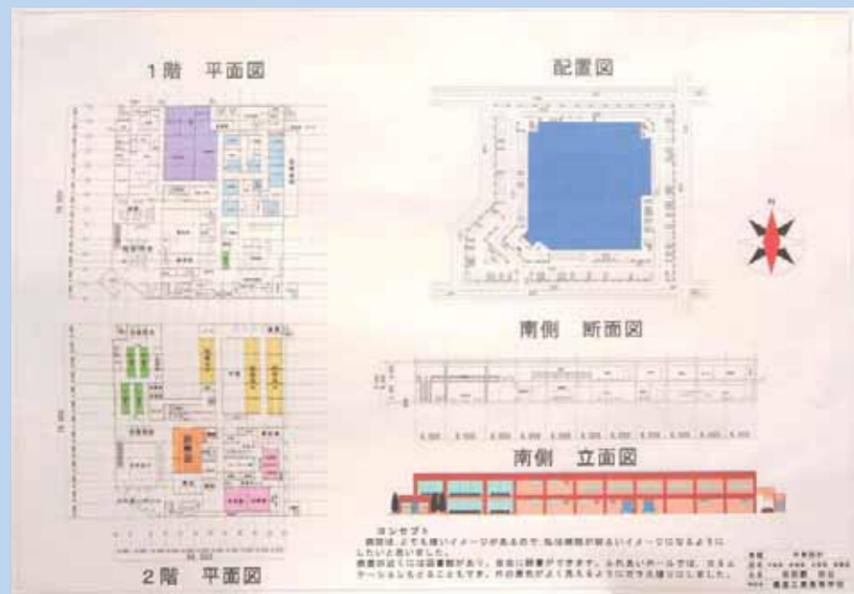
(講評：平良 啓)

選 奨 作 品 (特別賞)

工業高校部門

作品-病院建設

我那覇 宗谷-美里工業高校

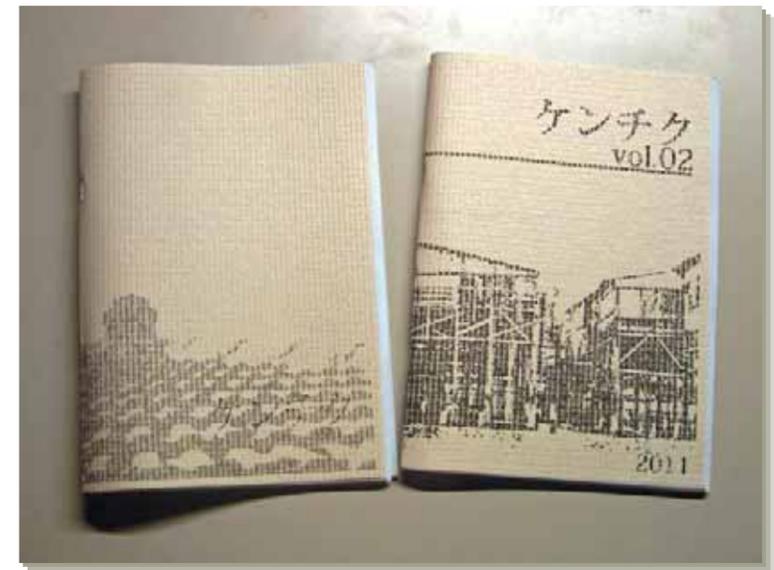


今回、高校の部で出品された中でも、専門知識を必要とされる難度の高い病院をテーマにした作品である。平面構成、規模設定等…まだまだ考察すべき点が多々あるものの、機能的に必要な要素は網羅されており、図書室設置のアイデアの取り込みや中庭の創出等、構造的にも破綻する事無く全体としてまとめられ、図面の成果は高校生レベルとしては充分以上なものと感じられた。直接作者の話を聞く機会は無かったが、多くの努力がなされた事が伺える好印象の作品であった。

(講評：大仲 英彦)

2011年度 J+A活動報告

玉城 盛太



〈僕らに 書けること を 書いてみた〉

県内設計事務所に勤める若手たちが、学び、活動する場としてJIA沖縄支部の協力を得ながら活動してきました。

J+Aも、気付けば活動年数も10年を超え、メンバーそれぞれも若手ではなくなってきている中、これまでの勉強会や、講演会などの受信型の活動から、J+Aからも何かを生み出す活動を発信することを目的とし、昨年度、今年度共に、JIAの建築展に便乗する形で、ミニコミ誌を発行。今回のvol.2では6名の書き手が、Mt.GAREKI〜がれきの山〜/造形美確認検テクチャの課題と将来/kokudou330、小さな単位からの建築/新崎 陣左、波之上水上店舗/普久原 朝充、ラジオ体操マニュアル/koji mototake、というタイトルで僕らに書けることを書きました。

それぞれのメンバーが現在の立ち位置で、建築や、世界、考えについて発信できたかと思います。

JIA沖縄支部、会員の皆様、建築展への参加関係者に感謝。

ミニコミ誌、vol.1、2共に無料配布できますokikenchiku@gmail.comまで

JIA沖縄支部 新規正会員



(有)アトリエ門口 安則

私達アトリエ・門口は地球について考えたい。破壊した価値よりも新しく建てる建物の価値が大きくなるものを創り続けたい。自然を想い、地球に緑があふれ人々に精神的な安らぎを与える建築を創出することが私達のテーマです。

経歴

1963年 沖縄県生まれ
1994年 (有)アトリエ・門口設立
2009年 グッドデザイン賞受賞、建築九州賞入賞
2010年 グッドデザイン賞受賞、建築九州賞入賞
2011年 グッドデザイン賞受賞、建築九州賞入賞



アトリエ ネロ 根路銘 安史

歴史的持続性と固有性の存在が地域らしさに繋がる。建築は、永く存在し続ける事で、人々の記憶を繋ぎ、場所、地域への愛着が生まれる。人々に愛される建築を造り、社会性を育む建築の活動をしていきたい。

経歴

1964年 沖縄県那覇市生まれ
1990年 琉球大学工学部建設工学科卒業
1990年 (株)環境デザイン研究所入社
1993年 (有)建築研究室DAP入社
1999年 アトリエ ネロ開設

受賞

2006年 第4回住宅建築賞 大賞
2008年 第6回住宅建築賞 奨励賞
2009年 第7回住宅建築賞 大賞
2011年 第9回住宅建築賞 人気投票特別賞



新規賛助会員



株式会社 沖縄建設新聞
代表取締役 大久 勝

本社 〒900-0012
沖縄県那覇市泊3丁目5番6号
TEL (098) 867-1290
FAX (098) 867-1295

E-mail oksinbun@nirai.ne.jp
創立 昭和34年(1959年)12月25日
法人設立 昭和37年(1962年)12月13日

平素は「沖縄建設新聞」をご愛顧賜り誠にありがとうございます。
さて、かねてより準備を進めて参りました県内建設情報紙3社の合併が平成21年5月1日よりスタートしました。
会社業務を統合することで、週刊の「沖縄建設新聞」は従来通りに発刊し、同形発行していた沖縄テレコン情報発行の「日刊建設ニュース」と「日刊工事 ニュース速報沖縄建設新聞」については、「日刊建設ニュース 沖縄建設新聞」として再編・発刊致します。
日刊2紙の業務統合は、編集体制を強化することにつながり、従来にも増して日々の情報を速報性を持ってお届けすることとなります。統合に甘んじることなく、取材体制の強化に努め読者の皆様のお役に立つ情報発信に全力を傾注して参る所存でございます。
また、沖縄建設新聞は平成21年に創業50周年の節目を迎えました。こうした時期に3社合併が実現したことは時宜を得たものと確信するところであります。
3社の合併を機に、これまで培ってきた信頼性、専門性、速報性をさらに追及し、読者の皆様に満足して頂けるよう業務に精励して参りますので、今後とも読者各位、関係各位の皆様のご指導ご鞭撻を賜れますようお願い申し上げます。



JIA沖縄支部会員名簿

- | | | |
|--------|--|---|
| 赤嶺 和雄 | 〒901-0153
那覇市宇栄原3-15-17ビル「さつき」202
(有)設計同人GAN 代表取締役 | TEL 098-858-3800
FAX 098-858-3802
E-mail aka-gan@hop.ocn.ne.jp
URL : http://www.aka-gan.com |
| 石川 幸延 | 〒905-0011
名護市字宮里453-7 大宮総合開発ビル2F
(株)AMS設計 代表取締役 | TEL 0980-52-5183
FAX 0980-53-6598
E-mail nago@ams1938.com
URL : http://www.ams1938.com/ |
| 伊志嶺 敏子 | 〒906-0012
宮古島市平良西里269
伊志嶺敏子一級建築士事務所 所長 | TEL 0980-72-2116
FAX 0980-72-3194
E-mail ishimine@orange.ocn.ne.jp |
| 伊良波 朝義 | 〒902-0072
那覇市真地169-1
(有)義空間設計工房 代表取締役 | TEL 098-888-5303
FAX 098-888-5304
E-mail t.iraha@gikuukan.com
URL : http://www.gikuukan.com/ |
| 上江田 正 | 〒901-0153
那覇市宇栄原2-24-6
(有)GA2設計 所長 | TEL 098-857-2826
FAX 098-857-2827
E-mail ga2@salad-jp.com |
| 運天 勲 | 〒901-2131
浦添市牧港2-8-4
(株)渡久山設計 社長 | TEL 098-876-1101
FAX 098-876-8880
E-mail banyan-untan@tae.co.jp
URL : http://www.tae.co.jp/ |
| 運天 浩 | 〒901-1102
南風原町宮城209-2
(株)myu設計 管理建築士 | TEL 098-888-1216
FAX 098-888-1216
E-mail myu-hiro@nirai.ne.jp
URL : http://www.myu-arc.com/ |
| 小倉 暢之 | 〒903-0213
西原町千原1
琉球大学工学部環境建設工学科 教授 | TEL 098-895-8654
FAX 098-895-8654
E-mail oguranob@tec.u-ryukyuu.ac.jp |
| 大仲 英彦 | 〒901-2131
浦添市牧港4-1-17ガウクルビルNO.3
(有)スタッフオズ 代表取締役 | TEL 098-876-8990
FAX 098-870-4637
E-mail staffoz@violet.plala.or.jp |
| 大浜 英和 | 〒907-0022
石垣市字大川287-5
匠設計室 代表者 | TEL 0980-82-3550
FAX 0980-82-9381
E-mail burus-5431@joy.ocn.ne.jp |
| 大嶺 亮 | 〒901-2102
浦添市前田1-9-17 大牧開発ビル2F
ファイブディメンジョン 所長 | TEL 098-874-3220
FAX 098-874-3237
E-mail makoto@fivedim.com
URL : http://www.fivedim.com/ |
| 門口 安則 | 〒904-2244
うるま市江洲595-4
(有)アトリエ門口 主宰 | TEL 098-974-3554
FAX 098-974-3588
E-mail yasunori@kadoguchi.net
URL : http://kadoguchi.net/ |
| 上村 彰 | 〒901-2224
宜野湾市真志喜2-16-6-102
(株)チームアルファ 取締役 | TEL 098-890-6000
FAX 098-890-0005
E-mail kmmr@team-alpha.jp
URL : http://www.team-alpha.jp |

JIA沖縄支部会員名簿

金城 傑	〒903-0814 那覇市首里崎山町2-13 (有)K・でざいん 代表取締役	TEL 098-835-5518 FAX 098-835-5519 E-mail suguru-k@nirai.ne.jp URL : http://kdesign.main.jp/	高増 和明	〒901-0155 那覇市金城2丁目8番地4 一級建築士事務所 SOFT 21	TEL 098-859-5444 FAX 098-859-5444 E-mail takamasu@soft-21.co.jp
金城 司	〒901-1117 南風原町字津嘉山750-1 (有)門一級建築士事務所 取締役	TEL 098-888-2401 FAX 098-888-2404 E-mail jo1q@ec5.technowave.ne.jp URL : http://www.jo1q.com/	武岡 光明	〒901-2301 北中城村字島袋1355 カントリーハイツ14 一級建築士事務所 T・武岡建築設計室 代表	TEL 098-933-2968 FAX 098-933-2999 E-mail takeoka@cosmos.ne.jp
金城 優	〒901-2132 浦添市伊祖1-32-1 伊祖ビル202 有限会社 門 代表取締役	TEL 098-870-0303 FAX 098-876-5159 E-mail mk@jo-ds.com URL : http://www.jo-ds.com/	玉那覇 有紀	〒903-0823 那覇市首里大中町1-41-3 (株)有建築事務所 代表取締役	TEL 098-887-7922 FAX 098-887-2732 E-mail yu_ken@d3.dion.ne.jp
金城 義治	〒901-0614 南城市玉城奥武字275-3 シーサイドビュ205 金城義治一級建築士設計事務所 代表	TEL 098-948-2516 FAX 098-948-2516 E-mail kinjo-2516@ac.auone-net.jp	知念 信正	〒904-2215 うるま市みどり町4-1-15 (有)新環境創造研究所 代表取締役	TEL 098-982-6788 FAX 098-982-6550 E-mail chinen-n@ii-okinawa.ne.jp URL : http://www.shinkankyo.jp/
具志堅 喬	〒901-2213 宜野湾市志真志1-8-1 (株)具志堅建築設計事務所 代表取締役会長	TEL 098-892-1017 FAX 098-892-1025 E-mail takashigushiken@gushikena-e.net URL : http://www.gushikena-e.com/	當間 卓	〒900-0023 那覇市楚辺230-6 (株)泉設計 代表取締役	TEL 098-832-1302 FAX 098-855-6788 E-mail t-toma@izmarc.co.jp URL : http://www.izmarc.co.jp/
久高 多美子	〒901-2132 浦添市伊祖1-4-12 (株)東設計工房 専務取締役	TEL 098-877-1962 FAX 098-877-1973 E-mail tameco@azumas.com URL : http://www.azumas.com/	中島 鉄臣	〒901-2113 浦添市大平1-2-20 (株)エル設計 代表取締役	TEL 098-878-0085 FAX 098-874-1752 E-mail info@e1-okinawa.jp URL : http://e1-okinawa.jp
国吉 真正	〒901-2113 浦添市大平2-19-11 (株)エー・アール・ジー 取締役会長	TEL 098-877-5556 FAX 098-877-5642 E-mail arg@arg2000.co.jp URL : http://www.arg2000.co.jp	仲宗根 徹	〒905-0011 名護市宮里3-4-7-1号 (有)ナカソネ設計 取締役	TEL 0980-52-2797 FAX 0980-52-0657 E-mail toru.n@nakasone-sekkei.co.jp URL : http://www.nakasone-sekkei.co.jp
慶佐次 操	〒900-0021 那覇市泉崎1-12-12 泉コーポ1F (有)名工企画設計 代表取締役	TEL 098-868-9491 FAX 098-868-9493 E-mail meikou@beach.ocn.ne.jp URL : http://www.mkok.jp	仲間 郁代	〒904-1201 金武町字金武8038-30 仲間郁代建築設計事務所 主宰	TEL 098-968-4827 FAX 098-968-3767 E-mail office@ikuyo-nakama.jp URL : http://www.ikuyo-nakama.jp/
國場 幸房	〒900-0015 那覇市久茂地1-2-20 (株)国建 名誉会長	TEL 098-862-1106 FAX 098-862-5072 E-mail yukifusa_kokuba@kuniken.co.jp URL : http://www.kuniken.co.jp/	仲元 典允	〒902-0069 那覇市松島2-1-8 (株)現代設計 代表取締役	TEL 098-979-9070 FAX 098-979-9071 E-mail gendai@ii-okinawa.ne.jp
小林 文男	〒901-2114 浦添市安波茶1-32-13 (株)ワールド設計 代表取締役	TEL 098-878-2215 FAX 098-879-0417 E-mail kobabun@world-sekkei.jp URL : http://www.world-sekkei.jp	永山 盛孝	〒900-0015 那覇市久茂地1-8-19 団設計工房 所長	TEL 098-863-2355 FAX 098-863-2359 E-mail nagas@violin.ocn.ne.jp URL : http://www.dansekkei.jp
古見 輝夫	〒902-0061 那覇市古島1-25-4 比嘉産業ビル201号 (株)協和設計事務所 代表取締役	TEL 098-886-3330 FAX 098-886-3355 E-mail okyowa@orange.ocn.ne.jp	西里 幸二	〒901-0231 豊見城市字我那覇426-78 一級建築士事務所 西設計 主宰	TEL 098-852-2888 FAX 098-852-2889 E-mail a-nishi@m1.cosmos.ne.jp
島田 潤	〒900-0021 那覇市泉崎2-19-1 (株)デザインネットワーク 代表取締役	TEL 098-833-2008 FAX 098-833-2038 E-mail dnjun@aol.com URL : http://www.dn-okinawa.com	西山 庸二	〒904-0105 北谷町字吉原993-5 沖縄職業能力開発促進センター 講師	TEL 098-936-1755 FAX 098-936-1853 E-mail y3.nishiyama@ehdo.go.jp
平良 俊夫	〒901-2132 浦添市伊祖1-32-6 (株)フォーム建築研究所 代表取締役	TEL 098-877-2455 FAX 098-870-5182 E-mail form@mocha.ocn.ne.jp	根路銘 安弘	〒900-0032 那覇市松山2-8-17 (株)根路銘設計 代表取締役	TEL 098-868-7477 FAX 098-868-9452 E-mail nero@nerome-sekkei.co.jp

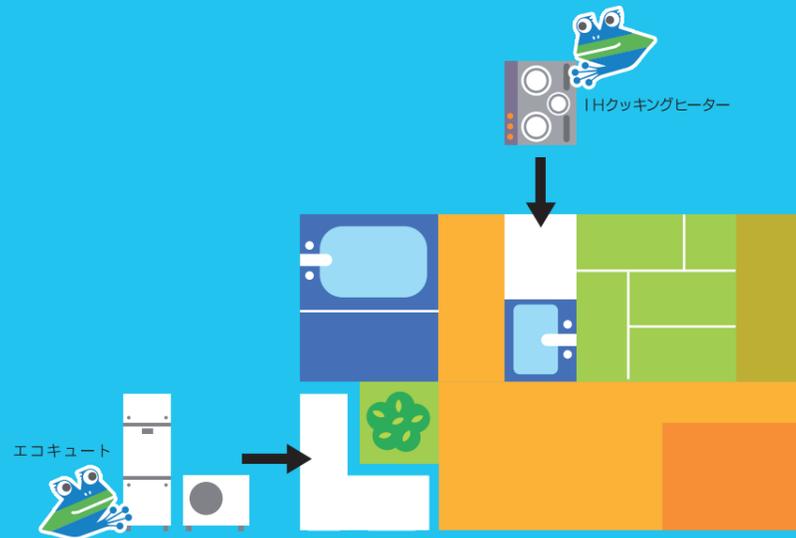
JIA沖縄支部会員名簿

根路銘 安 史	〒901-1111 南風原町字兼城644-10 アトリエ ネロ 代表取締役	TEL 098-889-0103 FAX 098-889-0103 E-mail nero-y@ii-okinawa.ne.jp URL : http://www.a-nero.com/	美 濃 祐 央	〒901-2133 浦添市城間1-17-11 一級建築士事務所 tin architects 共同主宰	TEL 098-988-0506 FAX 098-988-0507 E-mail ryem0119@ybb.ne.jp URL : http://www.tin-arch.com
野 原 勉	〒901-0151 那覇市鏡原町21-1 (株)都市建築設計 代表取締役	TEL 098-858-1002 FAX 098-858-2081 E-mail toshi_ken1002@ybb.ne.jp	宮 平 隆 雄	〒903-0825 那覇市首里山川町3-61-9 (株)宮平設計 代表取締役	TEL 098-886-1238 FAX 098-886-1445 E-mail tm-billhant4@iris.ocn.ne.jp
長谷部 廣	〒904-2173 沖縄市比屋根2-11-5 つぼみビル (有)長谷部建築研究所 代表取締役	TEL 098-930-0874 FAX 098-930-0917 E-mail info@hasebeokinawa.com URL : http://www.hasebeokinawa.com	山 城 東 雄	〒901-2132 浦添市伊祖1-4-12 (株)東設計工房 代表取締役	TEL 098-877-1962 FAX 098-877-1973 E-mail a.yama@azumas.com URL : http://www.azumas.com/
比 嘉 伝 英	〒905-0013 名護市城1-7-11 山葉商会ビル302号 美音Space Design株式会社 代表取締役	TEL 0980-54-4500 FAX 0980-54-4510 E-mail info@bionsd.co.jp URL : http://www.diosd.co.jp			
比 嘉 盛 朋	〒900-0015 那覇市久茂地1-2-20 (株)国 建 代表取締役社長	TEL 098-862-1106 FAX 098-868-3882 E-mail moritomo_higa@kuniken.co.jp URL : http://www.kuniken.co.jp/			
福 田 俊 次	〒900-0015 那覇市久茂地1-2-20 (株)国 建 常務取締役	TEL 098-862-1734 FAX 098-862-5072 E-mail shunji_fukuda@kuniken.co.jp URL : http://www.kuniken.co.jp/			
藤 元 節 男	〒900-0014 那覇市松尾1-18-26 沖縄メ・ビル6F 宜野座リゾート開発(株)企画開発本部長	TEL 098-864-1131 FAX 098-861-2333 E-mail lequios@bronze.ocn.ne.jp			
外 間 勉	〒900-0022 那覇市樋川2-14-16 (有)外間建築設計事務所 代表取締役	TEL 098-855-7572 FAX 098-855-7580 E-mail t-hokama@hokama.co.jp URL : http://www.hokama.ti-da.net/			
本 庄 正 之	〒902-0067 那覇市安里418コホテリアひめゆり4F (有)アトリエノア 代表取締役	TEL 098-884-2404 FAX 098-884-0935 E-mail call@a-noa.co.jp URL : http://www.a-noa.co.jp			
前 田 慎	〒901-2102 浦添市前田2-7-7 ポイントウォーカーデザイン 代表	TEL 098-963-8865 FAX 098-963-8865 E-mail mak@the-pwd.com URL : http://www.the-pwd.com			
又 吉 清 春	〒900-0014 那覇市松尾1-12-8 松尾ハウス6F JIA沖縄支部 参与	TEL 098-941-1064 FAX 098-941-1079 E-mail kiyoharu.2000@cyber.ocn.ne.jp			
松 田 幸 吉	〒900-0012 那覇市泊2-1-10 (有)設計集団 閃 代表取締役	TEL 098-863-5970 FAX 098-863-5973 E-mail tom2110@orange.ocn.ne.jp			
松 山 喜 治	〒900-0015 那覇市久茂地1-2-20 (株)国 建 専務取締役	TEL 098-862-1106 FAX 098-868-3882 E-mail Yoshiharu_Matsuyama@kuniken.co.jp URL : http://www.kuniken.co.jp/			

賛助会員

石川文明堂(株)	〒903-0104 西原町字兼久83 代表取締役社長 石川元義	TEL 098-945-3232 FAX 098-945-0703 E-mail i-motoyoshi@ok-bunmeido.co.jp URL : Ok-bunmeido.co.jp	沖縄三菱電機販売(株)	〒901-2223 宜野湾市大山7-12-1 代表取締役社長 大野和也	TEL 098-898-1111 FAX 098-898-0303 E-mail ono-kazuya@oki.mellife.co.jp
学校法人KBC学園グループ 専修学校 インターナショナル デザインアカデミー	〒901-2131 浦添市牧港1-60-14 学校長 松根正寛	TEL 098-942-6780 FAX 098-942-6781 E-mail suzuki@ida.ac.jp URL : http://www.ida.ac.jp/	沖縄菱電ビルシステム(株)	〒900-0015 那覇市久茂地1-3-1 代表取締役社長 沖本光憲	TEL 098-866-1175 FAX 098-861-4648 E-mail okimoto.mitsunori@okinawa-royden.co.jp URL : http://www.okinawa-ryoden.jp/
(株)岡村製作所沖縄支店	〒900-0015 那覇市久茂地1-7-1琉球ビル 支店長 藤井由紀夫	TEL 098-862-2121 FAX 098-869-6400 E-mail Yukio_Fujii@okamura.co.jp	(株)ざまみダンボール	〒901-0305 糸満市西崎町4-7 代表取締役社長 座間味 勲	TEL 098-992-2250 FAX 098-992-0111 E-mail s-uehara@zamami.co.jp URL : http://www.zamami.co.jp/
岡本産業(株)沖縄出張所	〒902-0074 那覇市仲井真360 取締役会長 岡本常義	TEL 098-853-7485 FAX 098-853-7485 E-mail tunesan@okamotosangyo.co.jp URL : http://www.okamotosangyo.co.jp	ダイキンHVACソリューション沖縄(株)	〒901-0155 那覇市金城5-3-4 代表取締役社長 櫻井啓司	TEL 098-859-4154 FAX 098-859-4163 E-mail keiji.sakurai@daikin.co.jp URL : http://www.daikin.co.jp/group/dkhuac-okinawa
沖縄ガス(株)	〒900-8605 那覇市西3-13-2 代表取締役社長 宮城 諒	TEL 098-863-7740 FAX 098-862-0623 E-mail ys.tokuzato@okinawagas.co.jp URL : http://www.okinawagas.co.jp	デジタルスタジオ ガラパゴ	〒901-2132 浦添市伊祖2-2-1 レモンビル303 代表取締役 工藤敏雄	TEL 050-1244-5037 FAX 050-1244-5037 E-mail digitalstudio@garapago.jp URL : http://www.garapago.jp/
AGC沖縄硝子建材(株)	〒903-0103 西原町字小那覇1323 代表取締役社長 藤元 勲	TEL 098-944-2121 FAX 098-944-2111 E-mail teruo@agc.co.jp URL : http://www.e-mado.info/agcokinawa/	TOTO(株)沖縄営業所	〒900-0004 那覇市銘苅3-10-17 所長 大塚孝一郎	TEL 098-868-0122 FAX 098-868-3783 E-mail koichro.otsuka@jp.toto.com URL : http://www.showroom.toto.jp/
おきなわ建築Web	〒901-2133 浦添市城間4-6-10 代表 新里香代子	TEL 098-963-7785 FAX 098-963-7785 E-mail mail@okinawa-kentikuweb.com URL : http://www.okinawa-kentikuweb.com/	(有)西原農園	〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-135-1 代表取締役社長 下地浩之	TEL 098-886-3071 FAX 098-886-3107 E-mail nisihara@nirai.ne.jp
沖縄三和シャッター(株)	〒901-0212 豊見城市字平良84-1 代表取締役社長 疋田 守	TEL:098-840-5538 FAX:098-840-5510 E-mail yamakawas@sip.sanwa-ss.co.jp URL : http://www.sanwa-hidgs.co.jp/	比嘉工業(株)	〒903-0103 西原町字小那覇903 代表取締役社長 比嘉広明	TEL 098-945-4620 FAX 098-946-2835 E-mail info@higa-kogyo.jp URL : http://www.higa-kogyo.jp/
(資)沖縄実業	〒902-0067 那覇市安里1-8-4 代表社員 宮里幸雄	TEL 098-867-0145 FAX 098-866-4182 E-mail kokuba@okijitsu.co.jp URL : http://www.okijitsu.co.jp/	(有)PDT duo	〒903-0816 那覇市首里真和志2-17 代表取締役社長 金城 学	TEL 098-885-8442 FAX 098-885-8442 E-mail manabu.kinjo@pdt-duo.com URL : http://www.pdt-duo.com/
沖縄電力(株)	〒901-2602 浦添市牧港5-2-1 代表取締役社長 石嶺伝一郎	TEL 098-877-2341 (3620) FAX 098-878-3842 E-mail teruo_nakamura@okiden.co.jp URL : www.kaeru.tv	パナソニック電工リビング九州(株) 沖縄支店	〒901-2101 浦添市西原1-1-11 支店長 富塚 健	TEL 098-878-6363 FAX:098-878-0818
沖縄パナソニック特機(株)	〒900-8692 那覇市西2-15-1 代表取締役社長 木村隆夫	TEL 098-868-0131 FAX 098-868-6783 E-mail arakaki.masahide@jp.panasonic.com	福山商事(株)	〒901-2556 浦添市牧港4-14-17 代表取締役社長 福山俊行	TEL 098-876-5200 FAX 098-876-5209 E-mail soumu@fukuyamacorp.co.jp URL : http://www.fukuyamacorp.co.jp/
(株)沖縄日立	〒900-0006 那覇市おもろまち1-3-31 代表取締役社長 山崎耕司	TEL 098-861-1045 FAX 098-863-2762 E-mail Takaesu_Akihiko@hbs.co.jp URL : okinichi.co.jp/about/outline.html	(株)沖縄建設新聞	〒900-0012 那覇市泊3-5-6 代表取締役社長 大久 勝	TEL 098-867-1290 FAX 098-863-8426 E-mail admission@okitel.com URL : http://www.cmoki.net/
沖縄文化シャッター(株)	〒901-0205 豊見城市字根差部667 代表取締役社長 松阪廣男	TEL 098-850-6116 FAX 098-850-6155	(株)琉球伊奈	〒901-2113 浦添市大平451-1 代表取締役社長 上門 伸	TEL 098-878-4620 FAX 098-878-1174 URL : http://www.ryukyuu-ina.co.jp/
			三協電気工事(株)	〒900-0005 那覇市天久903 代表取締役社長 松島寛行	TEL 098-868-8141 FAX 098-868-2209 E-mail gyoum@sankyoo.co.jp URL : http://www.denken3.com

簡単なパズル。



難しそうだけど、やってみたら案外簡単なパズルってありますよね。

「オール電化」も実はそんな感じ。

今お使いの給湯機やガスコンロを「エコキュート」と「IHクッキングヒーター」に取り替えるだけのプチリフォーム始めませんか？



セイカツをカエル。
オール電化

詳しくはオール電化ウェブサイト www.kaeru.tv へ

ガス衣類乾燥機

スピーディ
約50分で5.0kgの大量衣類もスピード乾燥。
所要時間は、なんと電気の半分以下。

大容量
たっぷり余裕の5.0kg。まとめ洗いの乾燥もおまかせ。

経済的
パワフルなガスだから、1回分の乾燥が安い。

ふっくら清潔
熱風乾燥だから、やさしい肌ざわりで清潔乾燥。

Rinnai



衣類にあわせて、
コースを選択。
あとは、おまかせ全自動。
リンナイ
はやい乾太くん
5.0kg乾燥
RDT-51S/SU
3.0kg乾燥
RDT-30A/AU

高効率ガスふろ給湯器

環境に
ECO 暮らしに
ECO

必要な時に、
必要な量のお湯を安定して供給
湯切れの心配がない、
快適なバスタイムを
高効率ガスふろ給湯器
エコジョーズがサポートします



ECOジョーズ

待望の普及タイプ登場！
*ガス代も約11%お得！
*CO2も約11%削減！
*熱効率90~95%を達成！
*軽量&コンパクト！
これまでの給湯器と同サイズ
設置場所も心配ありません

街に暮らしに ちゅらエネルギー

沖縄ガス
TEL.098-863-7730

高効率ガスふろ給湯器・ガス衣類乾燥機
お問い合わせは、
お気軽に沖縄ガスまで！
沖縄ガス |

働く人々の快適空間をデザインする オフィス・店舗デザイン設計から施工まで

- OAフロアー
- 学校用黒板・スクリーン
- 外装「ガーツ」(家電→遊技場)
- 調製引戸(アキュドア)
- 間仕切り(トリアース)
- 劇場家具・劇場イス
- ラック関連・実験台
- 各種内装工事

創業60周年 **IKB 石川文明堂株式会社**
本社：西原町字兼久83番地 TEL:098-945-3232 FAX:098-945-0703
那覇支店：那覇市泉崎2-105-18-6 TEL:098-835-9060 FAX:098-834-0239

あなたには、
夢をみる資格があります。

日建学院 検索

日建だからできた
新しい学習システム!

個別型学習ブース教室

フリースタイルコース 誕生!!
個別ブース無料体験実施中!

建築、不動産、建設業界資格のパイオニア「日建学院」が業界の枠を超えた資格取得講座をスタート!

1

全席指定の
個別型ブース

2

24時間利用可能

※一部24時間営業していない教室があります。
営業時間の詳細は各教室にお問合せください。

法律系 医療系 事務系 IT系 建築系 不動産系 などなど

全113コース!!

詳しくは総合パンフレットをご覧ください。

通学時間も講義内容も
自分次第!

3

カリキュラムが
自由自在

4

講義の質疑応答
にも対応

注目

日建学院ジョブサーチセンター

札幌・仙台・東京・群馬・新潟・金沢・浜松・大阪・岡山・福岡・熊本・沖縄

日建学院は全国ネットを活かし、全国主要都市12ヶ所にジョブサーチセンターを設置。「就職・転職」を目的とした“資格取得”“スキルアップ”をすすめる受講生に対し、全国から集まる求人情報を積極的に提供。全力で受講生と各企業との橋渡し(就職)をサポートしています!

資格取得から就職支援まで。

日建学院

■ 沖縄校 那覇市安謝2-3-7
トワ・プランビル1F
☎ 098-861-6006

■ コザ校 沖縄市松本3-1-20
☎ 098-983-4412

■ 名護校 沖縄県名護市為又1219番地
164 北部建設会館2F
☎ 0980-50-9115

編集 社団法人日本建築家協会沖縄支部
広報委員会
発行 社団法人日本建築家協会沖縄支部
〒901-0014 那覇市松尾 1-12-8(松尾ハウス 6F)
TEL 098-941-1064
FAX 098-941-1079
発行人 島田 潤
印刷所 合資会社 精印堂印刷
TEL 098-832-1311
発行日 2012年4月27日